

# 第3章 子どもを支える学校づくり

基本目標6 四日市ならではの

地域資源を生かした教育の推進



四日市ならではの地域資源を教育に生かすことにより、ふるさと四日市に誇りと愛着を持ち、社会の一翼を担う人材を育成するための教育を推進します。

- 1 歴史・文化・自然を活用した教育の推進
- 2 高度なものづくり産業と連携した教育の推進
- 3 公害対策モデル都市としての環境教育の充実



# 1 歴史・文化・自然を活用した教育の推進

## ◆ ねらい

四日市市は豊かな歴史と自然を背景に、様々な文化が生まれ、現在も数多くの文化財や伝統芸能などが継承されています。本市のもつ地域資源を教育に活用することにより、ふるさと四日市に対する誇りと愛着を育むとともに、地域とともにある特色ある学校づくりを推進します。

## ◆ 取り組み指標とその評価

H30までは全60校、R1からは全59校

取り組み指標	基準値	H28	H29	H30	R1	R2	目標値
博物館・久留倍官衙遺跡及び地域の歴史・文化・自然等を学習教材として活用した学校数(校)	小38 中22	小38 中22	小38 中22	小38 中22	小37 中22		全小中学校(59校)

- ・取り組み指標・市内全ての小中学校が、地域の歴史・文化・自然等を学習教材として活用しました。今後も、より効果的な学習教材となるよう展示の工夫や活動内容の充実等を図ります。

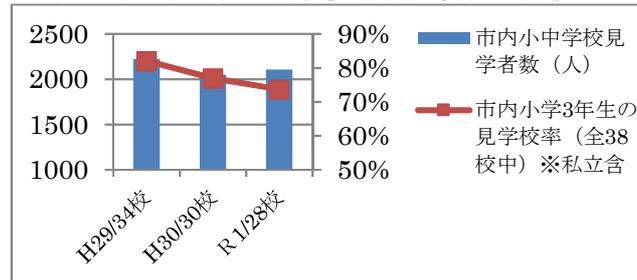
## 博物館の活用

### ◆ 具体的な施策の現状と課題

常設展「時空街道」、学習支援展示「大昔の四日市」「四日市空襲と戦時下の暮らし」「昭和の暮らし昭和の面影」では体感的な展示を通して学習支援を行っています。

- 学習支援展示・子ども博物館教室・むかしの暮らし読本・学習支援展示と子ども博物館教室の体験的なワークショップの連携により、歴史・文化に対する学習効果の向上を図りました。
- ・四日市空襲体験者による空襲体験を語り継ぐ場を設け、博物館資料と地域の人的資源の活用を図りました。
- ・図録「むかしの暮らし読本」では、60年の節目を迎えた伊勢湾台風を取り上げ、四日市における被害を振り返るとともに、防災について考えるきっかけとなるよう発行しました。全小中学校への図録配付による博物館資料の活用を図りました。
- 小中学校との授業連携
  - ・「昭和の暮らし昭和の面影」展では授業の参考となる見学のしおりを作成し、受身的な見学ではなくハンズオンコーナーや再現展示を利用しての体験的な授業を行っていただくことができました。

「昭和の暮らし昭和の面影」展活用状況の推移



再現展示で学ぶ児童



掛け軸の見方を学ぶ参加者【博物館教室】

### ◆ 今後の方向性

- 児童生徒が、自ら学び考える体感的な社会教育施設として、学習支援展示等を充実させ、より一層博学連携による教育効果を高めます。さらに、地域の教育資源に関する情報を積極的に発信します。

教職員研修受入推移 (内社会体験研修)	
R1	15人(8人)
H30	26人(9人)
H29	17人(5人)

## プラネタリウムの活用

### ◆ 具体的な施策の現状と課題

宇宙や星について、より理解を深めるために、プラネタリウムの機能を生かした特色ある学習投映を行っています。

#### ○ 小学校を対象とした学習投映

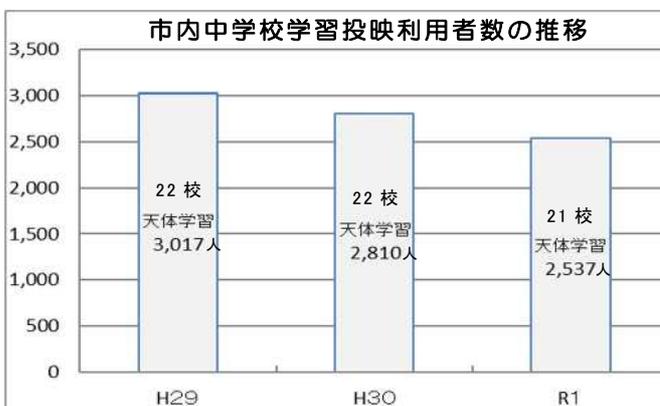
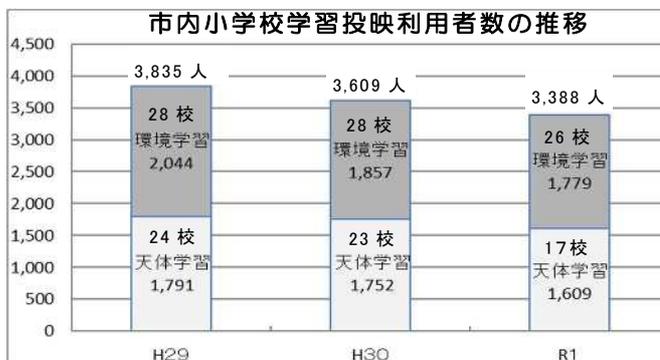
- 各学校の校庭から見た星空を忠実に再現し、時間とともに動く月や星座のスケッチなど、体験的な活動を重視した学習投映を実施しています。
- 環境学習番組「アースメッセージ」では、小学生には内容がやや難しいという学校からの意見を受け、地球の美しさを感じることができる番組「アースシンフォニー」を3学期から選択できるようにしました。



小学校の学習投映の様子

#### ○ 中学校を対象とした学習投映

- 「四日市公害と環境未来館」と連携して、環境学習を取り入れたプラネタリウムを実施しています。
- 投映のプログラムを2種類から選択できるようにしています。天文学習プログラムでは、学校の学習の進捗状況に合わせたプログラムにすることで、より理解を深めることができました。



### ◆ 今後の方向性

- 小学3年生の「昭和のくらし」展にあわせたプラネタリウムの利用校が減少しています。今後は、展覧会の内容にあわせた新しい学習投映プログラムを追加し、教員研修の場を活用するなど、利用促進とより深い学びの機会を提供していきます。
- 今後も学校教育をより推進するために、各学校の要望を取り入れながら、プラネタリウムの効果的な活用と充実に努めていきます。
- 環境学習番組「アースメッセージ」のシナリオを書き直し、子どもたちが理解しやすい番組にしていきます。

## くるべ古代歴史館の活用

### ◆ 具体的な施策の現状と課題

○「くるべ古代歴史館」の活用について

久留倍官衙遺跡のガイダンス施設「くるべ古代歴史館」は、昨年度に引き続き地域の小中学生の学習に活用されました。小学校では、久留倍遺跡で出土した土器を用いた学習や勾玉作り体験を行い、さらに、くるべ古代歴史館の見学をとおして、歴史学習の充実を図りました。中学校では、自分たちが暮らす土地の環境や歴史、文化を地域の人から学ぶ地域学習の一環としてくるべ古代歴史館を見学し、学んだことをクラスで発表することにより、深い学びにつなげる活動を行いました。小中学校での久留倍官衙遺跡の活用方法をリーフレットにして、全小中学校に紹介することで普及啓発を行いました。また、くるべ古代歴史館では、子ども向け企画展や自由研究のための講座など、さまざまなイベントを開催してくるべ古代歴史館の活用を図りました。



見学の様子

○教職員研修について

夏季教職員研修では、若手教職員を対象とした「久留倍官衙遺跡講座」と、一般教職員を対象とした「久留倍官衙遺跡とその活用」を行いました。「久留倍官衙遺跡講座」では、久留倍官衙遺跡の変遷や壬申の乱、聖武天皇の東国行幸など、中学生が学習する歴史上の事柄や人物との関わりなど、学習の基礎となる内容を中心に講座を行いました。「久留倍官衙遺跡とその活用」では、基礎的な内容に加えて久留倍と関わりのある万葉歌について解説を行いました。どちらの講座も平成29年度に作成した「小中学校における久留倍官衙遺跡の活用計画」をテキストに模擬授業を行い、また、復元した八脚門の見学を行う等、教職員自らが指導への具体的なイメージをつかむことができるよう研修を行いました。参加者からは、「地元にある教材としてぜひ久留倍官衙遺跡を活用したい」「四日市市の奈良時代について子どもたちに伝え、歴史の中に生きていることを感じさせたい」という感想を得ることができ、地域資源を活かした歴史学習の授業づくりに寄与しました。



夏季研修の様子

○発掘展 ～夏休み！子どものための考古学～

夏休み中の子どもを対象に、地域の遺跡について知ってもらうために、市内で出土した土器などの遺物を市立図書館2階で展示し、また、歴史に関連する図書コーナーを設置しました。“古墳時代の食べ物について知りたい”と学習課題をもって自由研究に取り組む子どもの姿が見られました。



発掘展の様子

### ◆ 今後の方向性

令和2年度は、八脚門の復元や遺構表示整備が完了し、くるべ古代歴史公園がオープンする予定です。四日市市に対する誇りと愛着を育むきっかけとなるよう、くるべ古代歴史館とあわせて久留倍官衙遺跡のさらなる活用をすすめていきます。

## 自然体験の充実

### ◆ 具体的な施策の現状と課題

- 全小中学校が自然教室を実施し、キャンプファイヤー、野外炊事やオリエンテーリング・ウォークラリー、カヤック等、豊かな自然の中で普段の学校生活では味わえない活動を実施しています。また、友だち同士助け合うことや協力することの大切さを学べるような活動を取り入れています。中学校では3校が冬季にスキー実習を中心とした活動を実施しました。

自然教室での実施プログラムと実施校数（鈴鹿青少年センター含む）

カヤック	小 25 中 3	里山保全	小 6 中 6	創作活動	小 24 中 15
アスレチック	小 3 中 2	星座観察	小 3	自然散策	小 2 中 3
ウォークラリー	小 22 中 13	ナイトハイク	小 6 中 2	野外炊飯	小 37 中 19
キャンプファイヤー	小 37 中 14	御在所スキー	中 3	ハイキング	小 6 中 5
搾乳・バター作り	小 6 中 2	早朝ハイキング	小 9	御在所登山	小 4

- 実施後の教職員アンケートからは、「ウォークラリーや早朝ハイキング等で山の中を歩いて自然に触れ、その美しさを感じることができた」「仲間と助け合ったり励まし合ったりして、一つのことをやり遂げる達成感や充実感を味わうことができた」「実行委員会を中心に班や部屋のメンバーで互いに声を掛け合い、行動するなど、仲間意識が高まり集団としての成長が感じられた」等、多くの成果が見られました。



沢登りの様子

- 一方で、「取り組み期間が短く、生徒が自主的に取り組めるような準備が不十分であった」「各活動の時間配分の見通しが甘かった。毎年異なる児童数、グループ数に対して活動内容と児童の動きを見通し、計画を立てる必要があった」等、計画するうえでの課題もありました。

### 令和元年度の施設利用状況

利用施設名	小学校（小5）	中学校（中1）
四日市市少年自然の家	37校 2,627名	20校 2,230名
三重県立鈴鹿青少年センター		2校 423名

※ 四日市市少年自然の家での利用定員の制限を超えた中学校2校については、三重県立鈴鹿青少年センターを利用しました。

### ◆ 今後の方向性

- 今後も活動内容が充実するよう、小中学校ともに、自然教室のねらいや子どもの発達段階に応じてプログラムを見直し、新しいプログラムを積極的に紹介するなど、日常では体験できないような自然体験活動をより充実させていきます。
- 夏季休業中に若手教員を中心として、野外活動「(内容)カヤック体験・飯盒炊きさん」に関する研修会を実施するなど、教員の指導力の向上に努めます。

### 第3章 子どもを支える学校づくり

#### 基本目標6 四日市ならではの地域資源を生かした教育の推進

#### 体験活動の充実

##### ◆ 具体的な施策の現状と課題

##### ○ 文化・芸術体験の充実

令和元年度各学校・園での「芸術鑑賞教室及び文化芸術体験」実施状況

項目	幼稚園・こども園 (22園中)	小学校 (37校中)	中学校 (22校中)	達成率(%)
全ての学年で、芸術鑑賞の機会を年1回以上もつ	22園	35校	11校	84.1%
わが国や郷土の伝統音楽・文化体験の機会をもつ	22園	29校	21校	89.0%

- ・ 音楽鑑賞や演劇、美術鑑賞など質の高い文化芸術に触れたり体験したりしています。
- ・ 我が国や郷土の伝統音楽・文化を体験する活動として、音楽科で箏や三味線の演奏体験、能狂言体験などが実施されています。

##### ○ 地域の歴史・文化を体験する活動の推進

総合的な学習の時間等における地域の歴史や文化に関わる学習の実施状況

項目	小学校	中学校	達成率(%)
総合的な学習の時間・生活科や社会科をはじめとする教科の指導において、地域の歴史や文化に触れる活動や体験学習を実施した学校	37校	20校	98.3%

主な活動内容

小学校	萬古焼体験、船祭りや地域の祭り調べ、茶摘み体験、昔の暮らしや遊びの体験、戦争体験の聞き取り、地域めぐり、地域マップ作り、史跡めぐり等
中学校	地域の歴史・史跡・名所等の調べ学習や見学、福祉施設等の見学や体験活動、萬古焼体験等の体験学習、和太鼓・獅子舞体験等

- ・ 社会科や総合的な学習の時間において、昔の暮らしについての聞き取りや遊び体験、自分の住む町の歴史・史跡の調査や文化体験等の学習が進められています。今後も地域教材を活用した体験的な活動を、年間計画に位置付けていきます。

##### ○ ものづくり・生産体験の推進

ものづくり・生産体験活動実施学校園実施状況

項目	幼稚園・こども園 (22園中)	小学校 (37校中)	中学校 (22校中)	達成率(%)
地域の地場産業や農業に触れる活動を実施した学校園数	22園	37校	20校	96.2%

主な活動内容

幼稚園・こども園	野菜・米栽培、きなこ作り、梨狩り、花壇作り、萬古焼体験、竹馬作り等
小学校	野菜・米作り、花栽培、収穫物の調理体験、とうふ・きなこ作り、餅つき、わら細工・竹細工、萬古焼・ランブシェイド作り体験、伊勢型紙
中学校	PTAとの花壇作り、伊勢型紙・萬古焼体験、野菜・バターづくり体験等

- ・ 幼稚園・こども園から中学校まで、発達段階や地域や学校の特色に応じた、ものづくりや生産体験を組み込んだ体験活動が進められています。

##### ◆ 今後の方向性

- 文化・芸術体験の充実については、関係機関との協力のもと、学校・園に対し「芸術鑑賞教室」等の実施に役立つ情報を提供していきます。
- 萬古焼や四日市港等、「四日市ならではの地域資源」に触れる機会を教育計画の中に位置付け、体験したことを保護者や地域・社会へ発信するような活動を推進します。

## 2 高度なものづくり産業と連携した教育の推進

### ◆ ねらい

四日市市の大きな特長である多様なものづくり産業や、四日市市が協定を締結している J A X A（宇宙航空研究開発機構）と連携した教育を推進することにより、科学への興味・関心を高めるとともに、社会とのつながりの中での学びを、生活の中で出会う課題の解決に主体的に生かしていこうとする態度の育成を図ります。

### ◆ 取り組み指標とその評価

取り組み指標	H27	H28	H29	H30	R1	R2	目標値
企業や J A X A の出前授業を受けたことがある学校数(校)	小中 16	小中 24	小中 28	小中 36	小中 42		小中 50校

- 出前授業を受けたことがある学校は7校増え42校となりました。（学校統合により、校数としては6校の増）今後も、より多くの学校で連携授業が実施されるよう、さまざまな機会では本事業の意義や連携授業の魅力について紹介し、特に新規校での活用を働きかけます。

### ◆ 具体的な施策の現状と課題

企業と J A X A の協力により、連携授業等を実施しました（協力のために提携している企業は18社。内訳は、出前授業の提携が15社、社会見学の提携が13社、教職員研修の提携が13社、四日市こども科学セミナーの提携が12社・2団体。）また、四日市ならではの地域資源として、18の連携企業と12の協力企業を四日市調べ学習お役立ちリンク集に掲載しました。

#### ○ 連携授業

令和元年度は、企業、J A X A、合わせてのべ36回の連携授業を行いました。

- 企業との連携授業

実験や講義を通して科学の仕組みがどのように製品に生かされているかを紹介するなど、学校で学習する内容と実生活や実社会との関連を実感できる授業内容にしています。環境に関する連携授業では、企業の環境対策を知るとともに、環境問題に対して自分たちに何ができるかについて考え合うなど、主体的に取り組む子どもの姿が見られました。

- 味の素株式会社東海事業所
- 味の素食品株式会社三重工場
- 株式会社東産業
- 株式会社三重興農社
- キオクシア株式会社四日市工場
- コスモ石油株式会社四日市製油所
- 昭和四日市石油株式会社
- JSR株式会社四日市工場
- 住友電装株式会社
- 第一工業製薬株式会社
- 大洋塩ビ株式会社
- 太陽化学株式会社
- 中部電力パワーグリッド株式会社
- 東邦ガス株式会社ガスエネルギー館
- 東ソー株式会社四日市事業所
- 日本アエロジル株式会社
- 富士電機株式会社三重工場
- 三菱ケミカル株式会社三重事業所



← (左) 中学1年生  
「身のまわりの物質」



(右) 小学5年生→  
「もののとけ方」

## 第3章 子どもを支える学校づくり

### 6 基本目標6 四日市ならではの地域資源を生かした教育の推進

- ・ J A X Aとの連携授業（10校17回 12学年で実施）

宇宙に関わる豊富な映像と最新の科学技術や情報をもとに、宇宙への夢が広がり、知的好奇心を喚起する授業となっています。また、プログラミング教育の一つとして、コンピュータに指示・命令をして、模擬的な人工衛星に意図した動きをさせる J A X Aプログラミングの授業も実施されました。



小学6年生 「人工衛星とプログラミング」

#### ○ 教職員研修

令和元年度は、企業による1講座、J A X Aによる1講座を実施しました。

- ・ 企業連携による研修

工場見学を通して、企業が持つ科学技術や働く人や市民の安全を守るシステム等について学び、教科で学習する科学技術と実社会とのつながりについて理解を深めました。さらに、研修会で企業による出前授業を実際に見た後に、教科のどの学習場面で、連携した授業ができるか考え合う研修を行いました。

- ・ J A X A連携による研修

理科だけでなく、さまざまな授業に生かせる宇宙教材とその活用例を学びました。また、実際に子どもの立場に立ってグループワークを体験することにより、宇宙を教材として効果的に活用する授業づくりのあり方について話し合うことができました。

#### ○ 四日市こども科学セミナー



企業等による実験・体験

毎年夏季休業中に開催し、「ものづくり」「環境」「宇宙」をテーマに、子どもたちが科学にふれ、科学への興味・関心を高める機会としています。

令和元年度は、「①環境のまち四日市～STOP！地球温暖化二酸化炭素を調べてみよう～」「②環境のまち四日市～食品工場の見学を通じた環境学習～」「③ J A X A コズミックカレッジ in 四日市『かさぶくろロケットを作って飛ばそう』」「④実感サイエンス『ものづくりのまち四日市』」「⑤宇宙に関する講演会『イプシロンロケットが拓く宇宙開発の未来』」

を開催し、全体で約690人が参加しました。

参加者からは、「今日学んだことをこれからの生活に活かしたい」「いつも食べているものや製品が、自分の住んでいる町の会社とつながっていることが分かった」といった声が寄せられました。

#### ◆ 今後の方向性

- 企業・J A X Aとの連携授業では、企業等の専門的な知識を生かしながら、実社会とのつながりを意識できる内容にするとともに、これらの連携授業がより多くの学校で実施されるよう働きかけます。
- 「四日市こども科学セミナー」においては、四日市市の産業都市としての特長や、産業の発展と環境保全の両面の取り組みをアピールするとともに、子どもたちの科学への興味・関心を高める取り組みを継続して、各パートの内容の見直し・拡充に取り組んでいきます。

## 3 公害対策モデル都市としての環境教育の充実

### ◆ ねらい

地域住民・企業・行政が一体となり、産業の発展と環境保全を両立するまちづくりを進めてきた本市は、現在、公害対策モデル都市として歩み続けています。その環境改善の取り組みについて学ぶことでよりよい未来の環境を考え、家庭や地域とともに継続的に環境保全に取り組む子どもを育てます。

すべての教育活動において、将来にわたり豊かな環境を持続する「持続可能な社会づくり」につながる環境教育を推進します。

### ◆ 取り組み指標とその評価

H30までは全60校、R1からは全59校

取り組み指標	現状値 H27	H28	H29	H30	R1	R2	目標値
「四日市公害と環境未来館」「四日市市立博物館」と連携した環境教育を推進した学校数(校)	小学校 38	60	60	60	59		全小中学校 (59校)

市内小学校5年生と中学校3年生を対象に「四日市公害と環境未来館」の見学を実施し、市内全小中学校において取り組みを進めることができました。今後も引き続き見学機会の確保に努め、「持続可能な社会づくり」につながる環境教育の充実を図ります。

### ◆ 具体的な施策の現状と課題

#### (1) 持続可能な社会づくりにつながる環境教育の推進

##### ○ 四日市公害と環境未来館・プラネタリウムと連携した取り組み

令和元年度は、市内全小中学校(59校)が、「四日市公害と環境未来館」を見学しました。小中学校ともに、主に社会科や総合的な学習の時間と関連させて、学びを深めました。

具体的には、展示解説スタッフの話や展示から四日市公害の歴史を知るとともに、市民、行政、企業など様々な視点から四日市公害について考えました。小学校では語り部による講演を実施しました。中学校においては、「四日市公害裁判シアター」の視聴をするなど、公民分野で学習する司法の役割の理解を深めたり、人権教育につなげて学習を深めたりしました。

見学後は、学んだことを新聞などにまとめて発表するなど、保護者や地域に発信する活動を行っている学校もあります。

また、プラネタリウムと連携し、環境番組が視聴できる見学プランを設け、環境問題や自然科学への関心を高めています。



「四日市公害裁判シアター」  
視聴のようす

第3章 子どもを支える学校づくり  
基本目標6 四日市ならではの地域資源を生かした教育の推進

○ 四日市版ESD<sup>※1</sup>カレンダー（環境教育年間指導計画）の活用

令和元年度( )中学校版ESDカレンダー  
(3)年生

学期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
国語						言葉を調べる			作られた「物語」を読み解く	
数学	音楽 ～音楽ゼミ～								図表～ソナー～ クッキー～	
社会			私たちの住む社会 ～持続可能な社会～						私たちの住む社会 ～環境教育～	
理科										
総合	平和について 考える		四日市公害と 環境未来館見学							
音楽										
美術									環境ボタンの制作	

ESDカレンダー（例）

各教科や特別活動、総合的な学習の時間など、関連する学習内容を年間指導計画上に配列し、教科等横断的な学習の構造を明確にしたESDカレンダーを全小中学校で作成し、活用を進めています。

また、ESD実践推進校<sup>※2</sup>を指定し、学習内容と実生活・実社会の問題をつなげて考える授業や、地域・家庭と連携した授業など、ESD推進を図る取り組みを進めています。

(2) 地域とともに進めるよりよい環境づくり

多くの小中学校で家庭・地域及び企業等と連携し、体験を重視した環境教育を展開しています。幼稚園では、栽培活動や生き物の飼育活動、ごみの分別や資源回収などを通して、生活に根差した環境教育を行っています。

また、国際連合の「世界環境デー」（6月5日）を受け、この日を「学校環境デー」とし、市内全ての学校・園で、学校の実情や地域性を生かした取り組みを実施しています。

＜具体的な取り組み例＞

- ・ 地域の方やJAと連携した米作りや野菜作り体験
- ・ PTAやNPO法人とともに行う里山保全活動
- ・ 地域の川の清掃と水生生物調査

小学校 (37校中)	中学校 (22校中)	達成率 (%)
36	21	96.6%

環境教育・環境保全活動を進めるにあたり、家庭・地域・企業と連携した取り組みを実施した学校の割合

◆ 今後の方向性

- 各学校による「四日市公害と環境未来館」「プラネタリウム」見学アンケートをもとに、さらに効果的な学習が実施できるよう、「そらんぼ四日市活用検討委員会」を年1回開催し、見学プラン等の検討・改善を行っていきます。
- 各学校で作成した四日市版ESDカレンダーに基づき、学年間や教科間の学習の関連を図ることで、これからの社会や環境をよりよくしていこうとする主体的な態度や実践力の基礎を養うための教育を推進します。
- 体験を重視した環境学習を展開するために、企業との連携授業、地域の人材・環境資源等を活用した学習を支援し、持続可能な社会づくりにつながる環境教育を推進していきます。
- 環境保全課等と連携し、「グリーンカーテン事業」や「こどもよっかいちCO<sub>2</sub>ダイエット作戦」などの環境教育の取り組みを進めていきます。

※1 ESD…将来にわたって持続可能な社会の創り手を育む教育（Education for Sustainable Development）

※2 令和元年度ESD実践推進校…楠小学校・大池中学校